

音楽表現 I

単位数	2 単位	対象学年	2 学年	対象コース・クラス	チャレンジ
使用教科書		副教材等	学校作成プリント		

1. 学習の到達目標

- ・音楽的感性を育てるために必要な音楽技能を身につける。
- ・ピアノ、ギターの奏法、楽典やソルフェージュなど基礎的な学習を身につけ、演奏技術の向上を図る。
- ・童謡の演奏や（コード付け）伴奏をできるようにする。

2. 到達目標に向けての具体的な取り組み

- ①身体で音楽を感じ、音楽表現に必要なスキルを学ばせる。
- ②音楽が有する良さを感じ、個性豊かに表現する能力を育てる。
- ③教育現場で必要な歌遊びや創作表現など、自主性を生かし、創意工夫できるようにする。

3. 学習上のメッセージ

中学校や高校音楽 I で学習した音楽の授業の経験を土台にして、生涯にわたって音楽を愛し、音楽と共に心豊かな人生を過ごすための基礎作りに取り組みます。ピアノ実技や歌唱、創作など多岐にわたり、授業を行います。選択者の中には、音楽に対し、苦手意識を持っている人もいるかもしれませんが、音楽を通して、感性を豊かにし、音楽をする喜びや感動を味わい、積極的に授業に参加しましょう。

4. 評価の観点・方法（年間の評定）

評価は次の3つの観点から行う。

知識・技能	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
思考・判断・表現	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。
主体的に学習に取り組む態度	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

評価は、具体的には次のものを対象とする。

- ①授業中に行う実技試験
- ②授業中の発問に対して回答を記入し、提出されたプリント等
- ③広島桜が丘高等学校生徒としての規則に則した服装での学習活動への参加状況かつ、実技中心の教科なので、実技への意欲、授業の参加状況も対象とする。

一年間の評定は、年間を通じて、総合的に判断し、決定する。

5. 学習内容と評価について

単元名	使用教科書項目	指導内容と評価のポイント
発声法		・呼吸法や口形、姿勢など発声の基本ができているか。
歌唱		・歌詞やリズムの変化など、曲調を生かした表現を工夫しようとしているか。 ・リズム、速度、旋律のフレーズ、言語と旋律との関わりを理解し、表現しようとしているか。
ハンドサイン		・音楽表現に必要な技術とその方法論を学ばせる。
1学期中間実技試験		
創作 ～童謡に振りをつけ てみよう～		・歌詞やリズムなど、曲調に合った歌と動きが考えられているか。 ・表現の工夫ができているか。
1学期期末実技試験		
音楽理論	音名、音部記号、 音符、休符等	・音楽表現に必要な知識を身につける。
基本奏法		・基本的な奏法を正しい奏法が身についているか。
2学期中間実技試験		
音楽理論	音程、和音、コード等	・音楽表現に必要な知識を身につける。
コード付け（伴奏）		・基本的なコードを覚え、曲調に合わせ、指定されたコードを弾くことができるか。
2学期期末実技試験		
クラシック演奏 -演奏発表-		・自分の感性を生かしながら、幅広い表現方法で演奏できているか。
学年末実技試験		